

平成 21 年 4 月 27 日

国土開発幹線自動車道建設会議

会長 杉山 雅洋 殿

委員 森地 茂

恐縮ですが、所用のため本日の会議に出席することができませんので、文書で意見を述べさせていただきます。

1. 国土形成計画で提示されているように、今、国土にとってもっとも重要な課題は、
 - ① 広域ブロックの国際・国内での競争力を強化して、地域の活性化を図ること、
 - ② 広域生活圏の形成により、人口減少下でも、医療、福祉、教育、防災、買物、文化、雇用などなどの生活サービスを維持・向上すること、の 2 点である。そのためのどのような道路網の強化が必要かを考えるべきである。
本会議の対象である高速道路網の存在は、地域の上記 2 点にとって基礎的な条件である。
2. 交通時間、費用、交通事故の便益のみで数値化された費用便益比のみで機械的に道路の必要性を決定することは学問的にも正しいことではない。費用便益評価により整備の優先順位を計算した後、必要に応じて別の要因から各プロジェクトの優先順位変更を、担当大臣が社会に説明した上で決定するのは、世界各国で普通に行われている。
3. ミッシングリンクとなっている区間はネットワーク効果を著しく阻害しており、基本的にはつないでいくべきである。可能な限り評価要因を拡充した費用便益評価に加え、上記 1 などに関する地域政策との整合性、地域や利用者の合意形成を確認して、整備に向けて取り組むべきである。

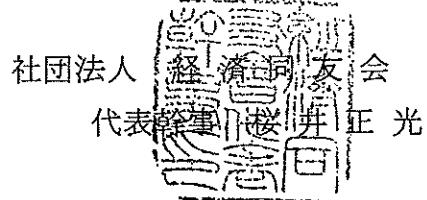
以上

2009年4月27日

国土開発幹線自動車国道建設会議

会長

杉山 雅洋 殿



第4回国土開発幹線自動車道建設会議について

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、誠に残念ではございますが、所用により、本日夕刻より開催されます第4回国土開発幹線自動車道建設会議に参上することができません。つきましては、会議開催にあたり、下記の通り、書面にて私の意見を申し上げます。

よろしくご高配くださいますようお願いいたします。

謹白

記

1. 今後の高速道路のあり方について

- 今後整備される高速道路は採算性に乏しく、有料道路方式での整備は難しいため、国費の投入は不可避である。したがって、費用便益分析により総事業費を上回る便益が予想される場合であっても、厳しい財政状況を鑑み、新規の整備計画の認定は慎重に行うべきである。
- 「合併施行方式」による整備については、「新規の有料道路事業は、会社の自主的判断で実施」するとの趣旨を損なわないように留意していただきたい。会議での決定後に高速道路株式会社各社と料金収入で償還可能な額を協議するのではなく、あらかじめ国の負担限度額を明示するとともに、例えば、残事業費を各社が負担できないと判断する場合には事業

計画そのものを見直す等、会社の自主的判断を尊重する仕組みを検討すべきである。

2. 新たに整備計画を策定する区間について

- 「新たに整備計画を策定する区間」については、上記の通り、認定には慎重を期すとともに、単なる現下の景気対策という観点だけではなく、中長期的な経済成長に向けた効果を重視すべきである。将来において大きな便益が予測されるとともに、今次の認定により周辺道路との接合が完了する「東京外環（関越～東名）」、「名古屋 2 環（名古屋西～飛島）」を優先することが望ましいのではないか。

3. 暫定 2 車線区間の 4 車線化に伴う整備計画等の変更について

- 「暫定 2 車線区間の 4 車線化に伴う整備計画等の変更」については、過去の交通量だけではなく、将来においても基準とされる 10,000 台／日を大幅に超えるか否かによって決定するべきである。また、整備計画を変更せず、代替的手段（標識の充実やパトロールの強化など）による安全性の向上に努めることも検討すべきである。

4. これから進め方について

- 「新たな整備計画の策定」及び「暫定 2 車線区間の 4 車線化」のいずれも、本来は全区間について優先順位を設定し、危機的な財政状況を踏まえた上で、選択的に整備を進めるべきである。したがって、今後の会議では、対象区間以外の未整備区間についても総事業費や費用便益分析等の資料を明示し、対象区間の整備計画策定を優先する意義・必要性を議論していただきたい。
- 今回の第 4 回国幹会議は、4 月 10 日に発表された政府の経済危機対策に盛り込まれた項目を予算化するための措置と認識している。当方には開催の連絡を 4 月 24 日にいただいたが、極めて重要な会議である以上、少なくとも開催自体については早期に連絡することを求めたい。前回会議の際にも出席者より、開催間隔が開きすぎるなどの運営上の課題が指摘されており、今後の運営方法の改善を求めたい。

以上